

やすらぎ通信

第24号 (平成24年11月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

霜月(雪待月)

母さんの歌

作詞・作曲 窪田 聡

かあさんが 夜なべをして
手袋あんでくれた
木枯らし吹いちゃ 冷たかろうて
せっせとあんだだよ
ふるさとの便りはとどく
いろりのにおいがした

かあさんは 麻糸つむぐ
一日つむぐ
おとうは土間で わらうち仕事
お前もがんばれよ
ふるさとの冬はさみしい
せめてラジオ聞かせたい

かあさんの あかぎれ痛い
生みそをすりこむ
根雪もとけりゃ もうすぐ春だ
畑が待ってるよ
小川のせせらぎが聞こえる
なつかしさがしみとおる
なつかしさがしみとおる

いよいよ11月、月の名前に「霜」「雪」という文字が入る季節を迎えました。今月の季語を探していると「大根引」「大根洗う」「大根干す」「沢庵漬く」という言葉が出てきました。田舎で育った私にとって子どものころの懐かしい思い出が蘇ってきます。このシーズンになりますと田舎の各家庭では、沢庵を一斉に漬け込む時期を迎えます。

沢庵は冬の保存食。また、沢庵さえあればおかずがなくてもご飯を食べることができると、当時の特に農村部の貧しい一般庶民の家庭にとってはとても貴重な食材でした。また、漬ける味も各家庭でまちまちで、沢庵の味はその家庭の食卓の味を象徴していました。

この沢庵を漬け込む準備入るのが11月。この時期になると私が住んでいた田舎では農家の主婦たちが、サッカリンや「黄粉（きいこ）」と当時言われていた食用色素を買い求めはじめます。それが、沢庵の漬け込みのシーズンがやってきたシグナルになりました。

沢庵漬けは庶民（その多くは農家）にとって11月の恒例行事。夏の終わりころに蒔いた沢庵用の細く長い大根が収穫時期を迎え、一家総出で大根を抜き、小川のせせらぎで泥を落とし、真っ白につるつるになった大根を2～3本ずつ藁でゆわえて竿に干し、軒下などに吊るしておきます。11月も半ばを過ぎると、寒い木枯らしがぴゅーぴゅーと吹きはじめ、大根から水分が徐々に抜けていきます。ほどよくしなびてきた頃に、竿から一斉におろし、一気に大きな甕やプラスチックバケツに漬け込みます。用意するのは米ぬか、塩、当時はサッカリン、「黄粉（きいこ）」など。また、うまみを出すために昆布などを入れることもありました。こうして漬け込まれた沢庵は2月頃になると食卓に上り始めます。少し経済的にゆとりがある家の沢庵は概して甘く、厳しい家庭の沢庵は塩辛いというのが相場でした。現金収入の少ない田舎では沢庵ひとつ食べるのもこうして調節しなければなりませんでした。

当時、サッカリンは高価な砂糖に代わって庶民やお百姓の家では優れた甘味料として多方面によく使われました。しかし、間もなく発がん性があるということで食用に使うことが禁止されてしまいました。しかし、砂糖を用いた沢庵よりもサッカリンを用いた沢庵の方がとても美味しかったことを覚えています。（今は、発がん性が明確に証明されなかったことにより、アメリカなどでは全面解禁されていますが、日本では発がん性物質のリストからははずれてはいるものの、その使用には一定の制限がかけられているようです。）

当時は、このように日常生活の中に季節を感じることもできる風情がありました。

ところで、その季節の風情を身近に感じることができるのは万代池公園。多くのカモやオオサギたちも再び帰ってきてくれました。また、これから美しい紅葉色に木々

はドレスアップし、しっかりと落ち着いた秋のたたずまいを見せてくれます。



今月の歌は「母さんの歌」を取り上げました。この作者窪田聡は 1954 年に東京の開成高校を卒業後、合格していた早稲田大学に通わず家出し、様々な職歴を経る中で戦後盛んであった「うたごえ運動」に参加しました。この曲は窪田が家出した 20 才頃に作った曲と言われており、家出中に次兄を通じ居所を知った母から届いた小包の思い出や、戦時中に疎開していた長野市の旧信州新町地区の情景を歌詞にしたものとされています。当時、うたごえ運動は、左翼的な社会運動を背景したものでありましたが、その拠点になったのがうたごえ喫茶でした。1955 年に新宿の「カチューシャ」「灯（ともしび）」の開店を期にうたごえ喫茶は全国に急速に拡大し、地方から都市の工場に集団就職でやってきた若者や学生たちの心をとらえました。作曲家のいずみたくや歌手の上条恒彦、佐藤宗之などは、このうたごえ運動からポピュラー音楽の世界に進出した人達です。

うたごえ運動で歌われた曲は、‘がんばろう’といった労働歌や‘ボルガの舟歌’のようなロシア民謡などが多くを占めていましたが、「母さんの歌」のような日本人の心にひびき、その後長く愛唱されるような名曲も作られ歌われました。「母さんの歌」はこのうたごえ運動を通じ全国のうたごえ喫茶に広まりましたが、その後ダークダックスやペギー葉山によって取り上げられ、さらに NHK の「みんなの歌」で放送され全国で知られるようになりました。

やさしくて暖かみのあるメロディと、母のやさしさへの深い思いをつづった歌詞は、この曲を今日でも人々に歌い継がれる名曲にしております。

ところで、母の愛は広大無限という少し大げさになるかも知れませんが、人間は洋の東西を問わずいくつになっても母の優しさ、母の慈しみとその深さから離れることができない内面を持つというのが普遍的な真実でしょう。

この人間が持つ母に対する普遍的な思いを宗教的観念に取り入れ、具現化したのが、ヨーロッパにおけるマリア信仰と日本における観音信仰ではないでしょうか。

起源も育ちも全く異なるキリスト教と仏教という二大宗教のもとで、偶然にも「母性信仰」とも呼べるべき信仰が発展したことは、とても興味のある事実です。また、江戸時代の厳しいキリスト教の禁止措置により迫害を受けたキリシタンたちが、慈母観音像に聖母マリアのイメージを映しだし、マリア観音として密かに崇拝し、自分たちの信仰を守ったというのも、マリアのイメージと観音のイメージが同じ母性に起因

するという共通性があったからではないかと思えます。

そこで、今回は、ヨーロッパのカソリックの国々で根付いているマリア信仰と、同じく日本に根付いている観音信仰を「母性信仰」という側面から一緒に考えてみたいと思えます。

ところで、もともとインドの仏教の原典では、観音菩薩は、女性の菩薩ではなく男性の菩薩とされています。しかし、観音信仰の長い歴史、特に江戸時代以降の民衆信仰としての観音信仰の歴史の中で、人々は観音菩薩像に母のイメージを重ね合わせ、女性の菩薩として擬制化していき、徐々に観音＝女性としての観念が確立されていったものと思われます。また、他方こうした観念は当然、仏像を彫る仏師の意識にも反映し、多くの十一面観音のように女性のような表情、姿の観音が彫られていきました。

観音菩薩は『大慈大悲』すなわち『衆生を救う大きな慈しみ』の心を持った菩薩であると仏教ではされています。この広大無辺な慈しみの心を、人間に置き換えると「全てを受けとめて受け入れてくれる」存在である母性にこそ備わっている資質ではないでしょうか。

また、観音菩薩は衆生を救うため 33 の姿に変身(化身)をとげるとされています。従ってもとは男性であったものであっても、人々を救うために、女性のように自分の姿、形を変身(化身)させることが可能となることから、十一面観音のように母性を感じさせる顔や姿をした観音もその化身の姿だということになります。

ところで、こうした観音信仰は、中国や韓国その他の仏教国でもその昔から発達していましたが、観音はアジアの他の仏教国で女性なのか男性なのか興味のあるところ です。

たまたま、その中で人口の 90%以上が仏教徒という仏教国ミャンマーでは、やはり観音が女性とされていることを知りました。

ある日、興福寺国宝館を訪れていたときのことで、興福寺国宝館には、有名な阿修羅や仏頭に混じって、大きな千手観音が真ん中に立っています。

その時、たまたま、その千手観音の前に立っていると、私の前に、東南アジアの国の政府高官と思わしき三人の紳士が、通訳の女性と観光ガイドを伴ってやってきました。そして、一通り観音を見た後、通訳を介して観光ガイドに、「私たちの国、ミャンマーでは観音菩薩は女性だということになっていますが、日本では性別はどうなっていますか？」と質問をされたのです。観光ガイドはそつなく「日本では男でも女でもありません。」と答えていましたが、仏教国ミャンマーで観音が女性と認識されていることが分かり、大きな収穫でした。

ところで、日本において観音信仰は、三十三所巡礼というように巡礼がネットワー

ク化されているところに大きな特徴があります。観音信仰が日本で大きく根付いたのは、観音像の母性化とともに、このネットワーク型の巡礼に負うところがとても大きいと言えます。

世界的な巡礼には、ローマ巡礼、エルサレム巡礼、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼、メッカ巡礼など、キリスト教やイスラム教の聖地への巡礼が有名ですが、その巡礼形態は、ただ一カ所の聖地をめざしひたすら歩き続けるというものです。

しかし、日本の観音信仰は西国三十三所巡礼を手始めとして、坂東、秩父、播磨などの有名な三十三所(34所)のほか、江戸時代には100を超える三十三所が出来たとされています。

もともと観音信仰は極楽浄土を求める来生信仰でありましたが、江戸期に入り、三十三所巡礼が庶民化するなかで、病氣平癒や現世での吉事を期待する現世利益をも合わせて追求する信仰へ変化を遂げていき、これに伴い巡礼の大衆化、娯楽化も進んでいきます。

また、合せて「ご詠歌」という鉦の音に合わせて歌う独特の「五七五」調の哀愁を帯びた巡礼歌をも生み出したことも、さらに人々を巡礼に駆り立てました。鉦の音に合わせてもの静かにご詠歌を歌いながら巡礼が通り過ぎていく。こうした風景が巡礼の姿として確立していきました。一種の浄土へ向かう旅の予行演習とでも言えます。こうして、昔の人たちは、死のイメージトレーニング、死生観を確立していったのです。

一方、ヨーロッパにおけるマリア信仰はどうでしょうか。

ヨーロッパの大聖堂やドゥオーモなどに行くと、多くのマリア像が祭壇を飾り、時には、マリア像がイエス像を凌ぐのではないかと違和感さえ感じる場合があります。

また、美術館に行きますと多くの宗教画と出会いますが、この中でもマリアを描いた多くの作品と出会います。教会音楽の世界でもマリアを聖人化した多くの楽曲が有名な作曲家たちの手で作られています。

とりわけ絵画は、当時のキリスト教の普及のための重要な手段でした。

グーテンベルグが1455年頃に活版印刷術を発明するまでは、キリスト教の普及の手段は、聖職者による説教と絵画や音楽しかありませんでした。

ようやくグーテンベルグの発明により文字で書いた聖書も出始めますが、当初の聖書は難解なラテン語やギリシャ語で印刷されていたことや識字率の問題もあり、なかなか文字による聖書は普及しませんでした。

このため、依然として絵画は、旧約聖書や新約聖書の一場面を描き取り、神の意思や行い、イエスの言葉、預言者の預言などを一般民衆に伝えるための最も有力な手段

でした。その中の主役を果たしたのが聖母マリアです。

例えば、ルネサンスの三大巨匠の一人と呼ばれるラファエロは、最も多くの聖母や聖母子、聖家族などを描いた作品を制作しました。

慈悲にあふれたマリアの表情や姿、やさしくイエスに手をさしのべ、わが子を暖かく見守る愛情に満ちたマリアの視線、ラファエロの描いたマリアは、理想の母の姿をマリアに託して描いています。このため、多くの制作依頼がラファエロのもとに来ました。ラファエロの聖母像に接した多くの当時の市民は、母のイメージを聖母像に重ね合わせ、人間の苦悩や悲しみ、死への恐怖など全てを包みこんでくれる存在としてマリアを受け止めたのでしょう。ローマカソリック教会が積極的にマリア信仰を推進した理由もここにあったのではないかと思います。

ところで、新約聖書では、マリアは大天使ガブリエルから、神の子を単独で宿した旨の告知(受胎告知)を受け、その子をイエスと名付けるように伝えられたとありますが、その後の新約聖書におけるマリアの扱いは、一貫してイエスの母親としてのものでありそれ以上ではありません。マリアの聖性というものは新約聖書からは一切出てきません。

このため、聖書を唯一の信仰のよりどころにしているプロテスタントの立場からは、そもそも、神と人間との間で神の意思を伝達する媒介者はイエスのみであり、マリア信仰は、神以外の崇拜と偶像崇拜を禁じた旧約聖書の「モーセの十戒」に違背するとしてカソリックを厳しく批判しています。

ヨーロッパにおけるカソリックとプロテスタントの分布はフランスや、スペインなど南欧や中欧・東欧の一部の国などでカソリックが多く、イギリスや北欧、オランダ・デンマーク、残りの中央、東欧などではプロテスタントが多いという勢力分布になっています。宗教改革の国、ドイツはちょうどカソリックとプロテスタントの割合が拮抗してします。このようにヨーロッパ全体で見た場合、大雑把に見て約半分の人達がカソリック信者であり、その人たちの間にマリア信仰が深く根を下ろしています。

特に異民族などに長年、制圧・支配され圧政に苦しんだ人たちは、その救いをより強くマリアに求めたのではないのでしょうか。

その一例をハンガリーに見ることができます。ハンガリーは、もともとアジア地域から今のハンガリーにやってきたマジャール人など複数の民族が一緒になり、1000年にイシュトバーンがキリスト教を国教として導入し、ハンガリー王国を打ち立てたのが国の始まりとされています。

しかし、その後このハンガリー王国は西からのオスマン帝国の侵略を受け、国土の3分の2がオスマン帝国に取られ、残りの3分1はオーストリアハプスブルク家に取りられて分割支配されるなどの悲劇を蒙りました。その後、オスマン帝国が衰退すると

今度は、国の領土の一部クロアチアやトランシルバニアはオーストリアに割譲されます。さらに19世紀後半のオーストリア皇帝がハンガリー国王を兼ねるオーストリア・ハンガリー二重帝国の時代を経て、ロシア革命後に成立したハンガリー民主共和国が今度はルーマニアの侵略を受け、最終的にオーストリア・ハンガリー二重帝国時代の国土の72%、人口の64%を失い今日に至るといふ複雑で厳しい歴史をたどりました。さらに、ソ連が崩壊するまでは、ハンガリー事件など社会主義体制の下でソ連に抑圧され、人々は出口のない鬱屈とした苦しい生活を強いられました。

こうした複雑な歴史を持ち、ずっと他の国に抑圧されてきた人々がその救いを聖母マリアに求めたというのはとてもよく理解できるストーリーです。聖母マリアは自分たちの鬱屈した出口のない絶望的な感情を癒し、生きる望みを与えてくれた存在としてハンガリーの人々に愛されたのです。

また、余談ですが、オーストリア・ハンガリー二重帝国時代の実質的に最後の皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の皇后エリザベートへのハンガリーの人々の愛着も一種の「信仰」に近いものがあります。二重帝国時代のハンガリーに対する統治は、非常に緩やかで大幅な自治をハンガリーに与えていました。また、エリザベートは、名だたる美貌の持ち主でその性格は自由奔放。このため、窮屈なウィーンの王宮での生活を好まず、多くの日々をブタペストの離宮で過ごし、ハンガリーをこよなく愛したと言われています。このため多くのハンガリーの市民は彼女の死後もなお、エリザベートを慈母のように心から敬愛し続けています。

ところで、日本においては、江戸時代に長いキリスト教禁教の時代が続き、長崎や熊本のキリシタンたちは、隠れキリシタンと呼ばれ、表向きは仏教や神道に改宗しつつも、密かに自らの信仰を守り続けました。そのとき、信仰の対象になったのが中国から輸入された慈母観音像だと言われています。人々は、慈母観音の姿に聖母マリアを重ね合わせて日々崇拜しました。この観音は後になって「マリア観音」と名づけられています。

これも、母性への「信仰」という両者の共通性に導かれたものではないかと思われまます。

今月は、「母さんの歌」から連想し、「母性信仰」という切り口で、日本とヨーロッパの信仰を取り上げました。

この問題意識のきっかけとなりましたのは、ハンガリーへの旅とそのときに出会ったハンガリー人の現地ガイド「アニコ」さんとの出会いでした。

彼女は10年ほど前に奈良教育大学に留学した経験を持つ女性で、素晴らしい日本語力を持ち、また、素晴らしく日本文化にも造詣の深い人でした。このアニコさんが

熱い思いを持って語ったのが、ハンガリー人のマリア信仰とエリザベートへの敬愛の情でした。永年のオスマン帝国による支配と、社会主義時代のソ連の支配、この二つは今日でもなおハンガリー人の骨の髄まで染みついている屈辱です。この屈辱の時代を耐えることができたのは、マリアとエリザベートへの両者への信仰の灯りがハンガリー人の心の中に灯り続けたからだと言っていました。

他方、観音信仰に関しては、「日本人は観音信仰が大好きな民族」と、かつて仕事でお世話になった歴史学の大家、上田正昭先生の著書の中のフレーズが、その後ずっと頭の中に残っていたことが契機になりました。

また、日常生活においても、肉親の死に際しての葬送の儀式、逮夜参りでのご詠歌は、肉親を亡くした直後の悲しみを癒し、自分の人生を再構築するうえで最高のグリーフケアにもなりました。

最愛の妻をがんで亡くされた国立がんセンター名誉総長の垣添忠生さんも、NHK ラジオ深夜便の中で、自らの体験をもとに次のような趣旨のことをおっしゃっていました。「妻を亡くしてから精神的にはうつ状態になった。もともと無神論者ゆえ、妻の葬儀を行ったあとも、何もしていなかったのだが、ある人に『やった方がいいですよ』と勧められて百か日の法要をやった。やって初めて気づいたのだけれど、こうした儀式を行うことが残された家族の心のケアにすごい効果があるのですね。先人の知恵だと思います。」

ところで、3.11以降、仏教関係者やキリスト教関係者など多くの宗教者が、宗派の垣根を越えて一宗教者として東北に入り多くの肉親を失われた方々への心の支援に取り組んでいます。

こうした姿を見ると、宗教の原点と新しい活動形態を見せていただいているようで、改めて宗教の大切さが認識されます。

近代的な医学理論や心理学に基づく心のケアだけではなく、理屈では割り切れない痛みや心の傷をかかえている人々の心の回復には、宗教者によるスピリチュアルなケアがとても大きな役割を果たすと思います。

そういった点で、こうした新しい課題には従来の種別や宗派等の垣根を越えた同じ宗教者としての大きな取り組みがより一層望まれるのではないかと思います。皆様方がいかがでしょうか。



先月は、山中伸弥教授のノーベル医学・生理学賞の受賞に日本国中が湧きあがった月でした。ノーベル賞の授賞式は毎年、12月10日のノーベルの命日に、平和賞はノルウェーの市庁舎で、それ以外の賞はストックホルムのコンサートホールで行われま

すが、この”山中フィーバー“はこの授賞式で第二の山を迎えることになります。

日本人のノーベル賞受賞者は、自然科学分野では、伝統的に物理学、化学の分野で多くを輩出してきましたが、医学関係では1987年に利根川進博士(当時、京都大学)が免疫学の分野で受賞して以来2人目の快挙になります。

近年のノーベル賞の傾向としては、受賞の対象となる研究が、実際にその研究をもとに実用化され、具体的に治療技術や科学技術の発展、人類の幸福に結びつく成果をもたらしたものに授与される傾向が強かっただけに、iPS細胞の作製技術の開発からわずか6年、まだその臨床応用の技術は開発途上という段階での異例の速さでの受賞となったことは、iPS細胞の作製技術の開発の意義いかに画期的なものであったか、また、iPS細胞が、医療の進歩を通じ人類の幸福に与える影響がいかに大きいかへの世界的な期待の現れであるといえましょう。

ところで、私自身、当センターでお世話になる前、「大阪バイオヘッドクォーター」という岸本忠三元大阪大学総長をトップとする産官学連携のもとでのバイオ振興のための拠点的オフィスの立ち上げと、そこでの具体的な事業推進に携わっておりました。

当時、倫理的な問題から研究の臨床応用について問題を抱えていたES細胞に代わって多能性を帯びた新しい幹細胞が受精卵を使用せずにできると言うiPS細胞の作製技術の開発は、世界の医学・製薬関係者のみならず、産業界も含め、社会全体に大きな衝撃を引き起こしていた直後であり、山中先生を講師に招いた講演会やセッションが、多くの内外の研究者の参加のもとで次々と開催されていた頃で、山中先生も今後の支援を考え、かなりのハードスケジュールでその日程をこなされていました。

私自身、幸いにもこうした大きなうねりの一端に身をおいていた関係もあり、山中先生と講演会やそのあとの交流会などで接する機会が多かったことから、私にとっては、今回のご受賞はことのほか身近に感じることでできるビッグニュースでした。

山中先生がノーベル賞をいつかおとりになるというのは、当時からバイオ関係者の間では確信を持って語られていましたが、こんなに早くとは、先ほど述べました最近のノーベル賞の傾向から予測されていた方々は少なかったのではないのでしょうか。

ところで、山中先生のお人柄やご経歴、これまでの歩みなどはご受賞以来、様々な関係者の証言で語られ、多くの日本人の知るところとなっていますが、あまり新聞では報じられていないエピソードをここでご紹介したいと思います。

それは、iPS細胞の研究を山中先生が奈良先端科学技術大学院大学で始められた頃、その研究資金を得るべく文部科学省所管の科学技術振興基金の助成事業のCRESTというメニューに応募されていたときのエピソードです。CRESTというのは、当時科学技術振興基金の中にあつた戦略的創造研究をチームでもって行う場合に優秀な研究チ

ームに研究資金を一定期間継続的に助成するという事業で、2003年から2009年まで続けられた事業です。山中先生は、奈良先端科学技術大学院大学に移られた直後に、CRESTのなかの「免疫難病・感染症等の先進医療技術」研究領域に応募されました。まだiPS細胞の影も形もない段階です。この研究資金の採択の審査責任者が岸本忠三先生で、岸本先生の言によれば、当時、この研究領域の研究者の選考は既に事実上終わっていて、研究資金の割り当てもほぼ終わり、端数整理程度の金額しか残っていなかったところに山中先生が駆け込んでこられたという訳です。エピソードというのはそこからなのですが、これは岸本先生自ら語っておられたことですが、「なんやようわからんけど、最初の印象は元気のいいのがやってきて前に座った。それで、私は、『あなたは一体何が一番得意やねん』と聞いたら、山中先生の答えは『私はラグビーが一番得意です』ということやった」。岸本先生は、当然山中先生から専門の研究領域答えがあるものと思っておられたら、山中先生の口から出たのは「私はラグビーが一番得意です」という言葉でした。普通であれば、世界的な免疫研究者を前にしてなかなか当時無名の研究者が言える言葉ではありません。しかし、紙上で報じられているように山中先生の「体育会系のノリ」だったのでしょう。ところが、その答えが岸本先生の気にとまり、山中先生は見事に岸本先生のテストに合格され、CRESTのメンバーとして正式に採択されたのです。岸本先生は、「なんせ、番外やったから、研究資金も一人前残っていなかった。残りをかき集めても（その年は）3000万円位にしかならなかった。それを渡したんですわ。」

このことについて、山中先生は後に、ある場で「そのようなことを言ったかどうか覚えていませんが、大変偉い岸本先生の前に座って頭が真っ白になった記憶がある。」と語っておられました。

これが、山中先生のiPS細胞の研究の事実上のスタートになったのです。今回のノーベル賞受賞のスタートのエポックとなりました。この分野の最先端の研究者間の国際競争が非常にシビアで、特にアメリカでは日本と桁が大きく異なる政府や財団、民間の研究資金が投じられています。もし、このCRESTの研究への採択がなかったならばと考えるだけでも背筋が寒くなります。事実、山中先生が初めてマウスでIPS細胞を作られたあと、人の細胞で作る競争は苛烈を極め、アメリカの企業の研究者と山中先生の論文掲載のその時間的差異は1か月でした。まさしく、“タッチの差”で山中先生がこのレースの完全勝者になりました。その意味でも、まだ、IPS細胞が海のものとも山のものとも分からない段階で、山中先生の研究の可能性を見出された岸本忠三先生の”千里眼“にもすごいものがあると思わざるを得ません。

山中先生は、このiPS細胞の開発後、最大限力を入れられたのは、日本のみならず諸外国での特許の取得です。当時、山中先生がおっしゃっていたのは、「この技術の

特許を欧米の企業などに先に取得されることを防ぐことです。そのためにもこの厳しい特許取得競争に打ち勝たければなりません。京都大学が iPS 細胞の諸特許を一元管理し、iPS 作製技術を難病や脊椎損傷などで苦しんでおられる患者さん方に新しい医薬品や再生医療として一日も早く安価で提供する、これが私の願いであり、医者を目指した私の思いにもかなうことです。利益を追求する企業にこの技術が渡り、高い医療費のために多くの患者さんが、この iPS 細胞を使った治療を受けることが出来ないということを絶対回避する、そのために知的財産の専門家の協力体制を早急に確立し、サポートをいただく必要があります」。幸いにして、文部科学省の手厚い支援や大学をあげての協力体制が実り、現在では、iPS 細胞作製技術の基本特許などが日本のみならずヨーロッパやアメリカ等で成立しております。

一方、iPS 細胞を使った臨床技術の開発は、そのスタート時点から多くの研究者が山中先生との連携のもとで取り組まれ、とりわけ再生医療の分野では、慶応大学の研究者の手により、脊椎の再生を通じた脊椎損傷への治療の研究が、また、神戸の理化学研究所発生・再生科学総合研究センターの研究者の手で網膜の再生を通じた加齢黄斑変性の治療の研究が、臨床研究に近く移れる段階まで来ていると言われています。また、再生医療に比べ出遅れている医薬品の開発への利用についても、この受賞を契機に一層速度アップされることが期待されます。

さて、当センターにおきましても、このたび 11 の研究部門と 1 研究室からなる臨床研究部（来春には「臨床研究センター」に発展）を発足させ、今後は治療と併せて新たに研究にも力を注いでいくことになりましたが、こうした最先端の研究の成果にも絶えず目を配りながら、一層提供する医療の質を高める努力を続けてまいりたいと思っております。

NEWS

【(新)臨床研究の新たな発展をめざし—臨床研究部を設置しました】

当センターでは、新たな医薬品、医療機器、治療方法などの開発を行うための臨床研究をこれまで以上に推進するため、このたび、新たに院長直属の「臨床研究部」を設置し、11 の研究部門、1 の臨床研究室(実験)でスタートしました。臨床研究部は、来年 4 月には「臨床研究センター」に発展させる予定です。各研究部門の概要は以下の通りです。

第 1 研究部門（がん）、第 2 研究部門（腎・心・血管・肺）、第 3 研究部門（代謝・消化器）、第 4 研究部門（精神・脳・神経・麻酔）、第 5 研究部門（免疫・アレルギー・

移植・感染)、第6研究部門(救急・小児・周産期)、第7研究部門(運動器)、第8研究部門(生体画像・検査医学)、第9研究部門(薬学)。第10研究部門(看護学)、第11研究部門(医療疫学、医療情報)、臨床研究室(実験)

【(新)今月からPET-CTによるがん検診を開始します—画像診断科】

—低被ばく・短時間撮像で高画質。快適な検査環境と高い診断精度で皆様方にご満足いただけることと確信しております。—

PET-CT検査につきましては、これまでは、がんが見つかった患者さん、がんの疑いのある患者さんを対象として、精査のための検査を行って参りましたが、11月1日から、地域の医療機関からのご紹介を条件に、がんの疑いのある患者さんだけでなく、広くがん検診を目的とした検査も実施することとなりました。

当センターのPET-CT装置は、国内で5台目のTOF(Time-of-Flight)技術を用いた世界最高水準のもので、ノイズの少ないクリアで高品質な画像を得ることができます。

一度に全身(頭部から大腿部)のFDG-PETがん検診とCT検診を受診できます。診断は全て放射線診断専門医・PET診断認定医が行います。

検査室のインテリアや照明は、落ち着いたくつろいだ雰囲気の中で安心して検査を受けていただけるよう工夫をこらしております。

検診のご利用料金は、98,000円(税込)です。是非、皆さんの健康管理にご活用下さい。

また、引き続きがんが見つかった患者さん、がんが疑われる患者さんの地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けておりますので、こちらの方も積極的にご活用下さい。

お問い合わせは画像診断科RI(核医学)・PET検査室まで。

【(継)進む!放射線治療装置を活用したがんの低侵襲治療—放射線治療科—】

当センターの放射線治療装置を一新して2年目に入っております。この期間に脳・肺・肝に対する定位照射、前立腺IMRT(強度変調放射線治療)を順次開始し、今年4月からは頭頸部腫瘍に対するIMRTも開始しました。画像誘導技術を用いた低侵襲治療が可能で、脳定位照射などいずれも外来通院で治療は完結できます。

現在では高精度治療は初診から数週間程度で、待機可能な前立腺癌に対するIMRTでも3ヶ月待ち程度で受けて頂くことが可能となっております。

また、小線源治療(高線量率遠隔治療および前立腺癌に対する低線量率ヨード線源永久挿入療法)も行っています。

放射線治療装置を用いたがん低侵襲治療に関しては、お気軽にご相談ください。

放射線治療科 部長 島本 茂利まで

【(継)前立腺がんの手術—内視鏡手術支援ロボット

“ダ・ヴィンチ ‘による手術を他施設に先駆けて本格実施中！】

泌尿器科領域における手術の多くは腹腔鏡手術となってきました。副腎から始まり腎摘除術、腎がんの根治手術に適應され、現在は前立腺がんの手術にも多くの施設で腹腔鏡手術が主流となってきました。

当科では 2009 年から腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2010 年に施設認定を取得し 2011 年は 69 例の前立腺がん手術のうち 36 例に腹腔鏡手術を施行しました。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を 5~6 箇所開けて直径 5~12mm のトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です。内視鏡で観察しながら行いますので、肉眼よりは拡大視野で行うためにより、細かい手術が可能となっています。尿失禁に関係する尿道括約筋や勃起神経の温存が可能です。開腹手術に比較して出血量も極めて少なくなっています。傷の治りが早く術後の痛みが少ないため術後回復が早いことが特徴で、入院期間は 10 日から 2 週間ぐらいの期間です。

今年の診療報酬改定に伴い医療用ロボットを使った手術が保険で行うことが可能となったため、当センターでは府内の他施設に先駆けて、手術支援ロボット「da Vinci S」(ダ・ヴィンチ)を導入・活用し、前立腺がんの内視鏡手術を行っています。

このダ・ヴィンチによる手術の特徴は術者が拡大された 3 次元の画像を見ながら手術操作を行うところにあります。手術操作鉗子の先は手首や指の関節のようになめらかに動き、手以上の可動域を持っており、より細かな手術操作が可能となり、狭い骨盤の底で尿道と膀胱をつなぎ合わせる前立腺がんの手術には最適の医療技術です。前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に関する神経や尿道括約筋が存在します。拡大された 3 次元の画像を見ながら、術者の手の動きは縮小され、手ぶれも補正されて行われるため正確な手術が施行可能です。特に尿道と膀胱の吻合はダ・ヴィンチならではの有用性が活かされます。したがって、がんの根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減も期待できます。

【(継)「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

新たに開設! 06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時
相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等
相談員 看護師

【(継) 診察予約変更センター

11 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の 11 診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(新)入院治療費の概算に加え、新たに外来での検査費用の

概算を予めお知らせするサービスを始めました。】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、11月1日から、新たに、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスを開始しました。

今月の催し

【(新) 参加者募集！ 相愛大学×当センター連携事業 —

第3回糖尿病予防セミナー】(受付締め切りは5日です)

日本では、糖尿病や糖尿病の疑いのある方が増えています。その改善には食事などの生活習慣の改善が欠かせません。そこで当センターと相愛大学が連携・協働し、患者さん以外の方も対象に、本セミナーを開催し、お一人お一人が食事など生活習慣の問題を考え、改善するきっかけを提供させていただきます。

なお、本セミナーは『世界糖尿病デー』(11月14日)の行事の一環として開催します。

日 時 11月10日(土) 午後1時30分～4時
内 容 テーマ「糖尿病予防のキーワードは**野菜!**」
糖尿病予防で最近、特に注目を浴びているのが野菜!
1日に必要な野菜は350g。しっかり摂れていますか?
聞いて、見て、体験して考えてみませんか?
① ミニ講座
② 相愛大学学生と教員が考えた体験学習コーナー
・食育SATシステムによる食事診断
・体脂肪、筋肉量測定
・血糖値測定
・野菜コーナー、クイズラリーなど
場 所 本館3階講堂・保健教室・通路
申込み 当センター 06-6692-2222
またはホームページ申込み画面より
期 限 11月5日(月)まで 先着200名

【(新) 第10回万代・夢寄席一小二三の講談話】

～上方講談の若手女流講談師 旭堂小二三が語る人情講談!～

日 時 11月6日(火) 午後2時～
場 所 本館3階講堂
出 演 上方講談界の若手女流のホープ
旭堂 小二三
主 催 万代やすらぎ亭

【(新) 大好評!!

相愛大学連携・外来糖尿病教室 ～知って得する!糖尿病の付き合いかた～】

日 時 11月20日(火) 午後2時～3時30分
場 所 本館1階アトリウム
内 容 「糖尿病の歴史」
糖尿病代謝内科診療主任 藤木 典隆
「頸動脈エコーって何?」
臨床検査科検査技師 藤田 武
「アルコールについて」
管理栄養士 笠井 香織

【(新) 今月のすこやかセミナー】

① 増えている産婦人科がん—あなたは大丈夫とっていませんか?—

日 時 11月8日(木) 午後2時～3時

場 所 本館3階保健教室

講 師 産婦人科診療主任 連 美穂

(参加無料)

② 応援します!!在宅医療

日 時 11月30日(金) 午前11時～12時

場 所 本館3階保健教室

講 師 地域医療連携室看護師長 玉森 道子
社会福祉士 小西 照代

(参加無料)

【(新) 4回目来演! ミュージックボックス による 癒しのコンサート】

“あなたに贈る夢の玉手箱”をテーマに、3台の鍵盤楽器とメゾソプラノの歌を交えた演奏で、幅広い年齢層から支持されている による による楽しい癒しのコンサートです。

日 時 11月26日(月) 午後3時～

場 所 本館3階講堂

演奏曲目 日本の四季の歌メドレー

シャンソンメドレー

はげ山の一夜(ムソルグスキー)

秋の歌を 一緒に ほか

【(継) 第6回企画展! 前田藤四郎 抽象版画後期作品展】

前田藤四郎(1904-1990)氏の、後期の抽象版画の作品をご紹介します。なお、本企画展は大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力で開催しております。

前田藤四郎(1904-1990)は、兵庫県生まれで神戸高商(現神戸大学)を卒業した後松坂屋宣伝部に入社し、商業美術に携わる一方独習で版画の世界に入りました。主に関西を中心に、木版をベースに、リノリウムやシルクスクリーンをも使用し、油彩絵具で刷り上げる独特の明快な作風を確立。昭和の大阪のモダニズムを代表する版画家となりました。

日 時 9月24日(月)～12月21日(金)(午前9時～午後5時30分)

場 所 本館2階現代美術空間—病院ギャラリー

【(継) 開催！芦屋市美術協会会員—小林芳夫写真展～邂逅の世界から～】

当センターの前身である旧大阪府立病院で心臓疾患の専門医（1988年、心疾患専門診療科部長で退職）として勤務していた小林芳夫氏が、退職後に本格的に写真家として活動を開始。今日まで日本国内のみならず、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界各地で撮影を行い、10年ごとに3冊の写真集「邂逅」「邂逅Ⅱ」「邂逅Ⅲ」を出版（1作目は自費出版）。

多くの作品を大阪大学などに寄贈されるなか、氏の手元に残された秀作16点の写真展を開催しています。

日 時 6月25日(月)～12月21日(金) (午前9時～午後5時30分)
場 所 本館2階現代美術空間—病院ギャラリー

【(新) 府民公開講座— 肺がんが心配な時には —】

生涯で、がんにかかる可能性は、男性は2人に1人、女性は3人に1人とされています。その中で肺がんの患者さんは年々増加傾向にあります。

肺がんを疑うのはどんな症状があるときか？

肺がんの可能性があるときは、どんな検査をするのか？

どんな治療法があるのか？

みなさんと一緒に考えます。

日 時 12月8日(土) 午後1時30分～3時
場 所 本館3階 講堂
講 師 呼吸器内科主任部長 上野 清伸
(定員100名、参加無料)

【(新) 今年も行います！「ふれあい病院探検隊」】

昨年度、大好評をはくしました「ふれあい病院探検隊」。未来の医師、看護師、薬剤師、診療X線技師、臨床検査技師、PT/OT/ST、医療事務などを目指して府内の高校1・2年生に、実際に病院の仕事を模擬体験していただくイベントです。

開催日 平成25年1月13日(日) 午前10時～午後4時

対 象 府内の高校1・2年生 (先着500人)

場 所 当センター内

参加者募集期間 11月19日(月)～12月10日(月)

申込み (専用FAX) 06-6606-7070 (行事案内チラシに付いている申込書
に必要事項を記載してお送りください。)

または、当センターホームページからもお申込みできます。

お問合せ (専用 TEL) 06-6692-2222(午前 9 時～午後 7 時)

または、tanken@gh.opho.jp

【(予告) 第 11 回万代・夢寄席一玉之助の“新春太神楽”でお正月を一】
～前回初登場し、大好評を博した豊来家玉之助。天満天神繁盛亭仕込みの
おめでたい太神楽曲芸で、新しい年の福の訪れを願います!～

日 時 平成 25 年 1 月 10 日(木) 午後 2 時～

場 所 本館 3 階講堂

出 演 豊来家 玉之助

主 催 万代やすらぎ亭

【(予告) 第 12 回万代・夢寄席—三代目桂春団治—門会—】

日 時 平成 25 年 2 月 12 日(火) 午後 2 時～

場 所 本館 3 階講堂

出 演 桂 梅團治

桂 紋四郎

主 催 万代やすらぎ亭

協 力 三代目桂春団治師匠を囲む会

【(予告) 第 8 回病院ギャラリー企画展】

—昭和の巨人・グラフィックデザイナー 田中一光の世界—

戦後から昭和が幕を閉じるまでの期間、日本のグラフィックデザイナーの絶えずトップランナーを突っ走った田中一光。その鋭い感性で、未来を鋭くキャッチし、広告やポスターデザインに取り入れ時代を先導した姿に、多くのフォロワー達が胸を熱くし、今もなお彼の姿を追いかけている。

今回は、大阪を中心に活躍した、我が国のグラフィックデザイナーの巨匠が残したポスター作品の数々の中から、我が国の経済が絶頂期にあった大阪万博以降の作品を取り上げて時代をともにたどります。

本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。

日 時 平成 24 年 12 月 25 日(火)～平成 25 年 4 月 19 日(金)

(午前 9 時～午後 5 時 30 分)

場 所 本館 2 階 現代美術空間 病院ギャラリー

展示作品リスト

- ① 1973年 日本の選択（毎日、日本研究賞論文募集、新聞広告）
- ② 〃 上方芸の会
- ③ 〃 サンケイ観世能
- ④ 〃 演劇「探偵」（劇団四季 西武劇場）
- ⑤ 〃 結城 人形座公演
- ⑥ 1974年 池坊専永展
- ⑦ 〃 演劇「桜の園」（チーフホフ作、劇団民藝、西武劇場、東京）
- ⑧ 1976年 Music Today “76
- ⑨ 1977年 Hanae Mori
- ⑩ 〃 曼荼羅展 1977
- ⑪ 〃 JAPAN STYLE
- ⑫ 1979年 ゆめつづれ
- ⑬ 1981年 マルシエル・テュシヤン展
- ⑭ 1982年 緑と人
- ⑮ 〃 草月：創造の空間展
- ⑯ 〃 多彩な食卓：House Food
- ⑰ 1983年 サンケイ観世能
- ⑱ 1984年 ヨーセフ・ボイス展
- ⑲ 1985年 Music Today “85
- ⑳ 〃 中村宗哲歴代展
- 21 〃 イサム・ノグチ展
- 22 1986年 Japan
- 23 〃 オープン 銀座セゾン劇場
- 24 〃 カルメンの悲劇
- 25 〃 チャオ・イタリア
- 26 1987年 WRAPPING “88
- 27 1988年 Street
- 28 1989年 セゾン美術館
- 29 1990年 グラフィックデザインの今日
- 30 〃 三宅一生展 TEN SEN MEN
- 31 1991年 CANADA”91
- 32 〃 AKIKO The Dancer
- 33 1993年 文字の演技力
- 34 1996年 人間と文字—エルトリア
- 35 〃 In Search of Elegance
- 36 〃 モリサワ フォント (A)
- 37 〃 New Japanese Graphics

以上37作品

【(新) やすらぎのプロムナードで秋の訪れをキャッチー北側通路周辺ー】

11月に入りいよいよ秋も深まってきました。今月のプロムナードは、下旬からいよいよ木々が黄色や赤色に美しく色づきます。落ち着いた晩秋のたたずまいを、ベンチに腰かけてのんびりとコーヒーでも楽しみながら感じるというのはいかがでしょうか。

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラスト(旧NIC)の窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 書類係(証明書発行窓口) 森本さんの巻】

森本「私の勤務する「書類係(証明書発行窓口)」は専ら診断書のみを受付し、交付をさせていただいている他の病院ではあまりない独立したユニークな部署です。

毎日多くの患者さんやご家族が、診断書の発行を求めて窓口にやってこられます。私たちは診断書の作成依頼を受理させていただいたあと、主治医の先生に作成依頼し、それを回収し、所定の手続きをした後に、お電話でご連絡して受け取りに来ていただいています。

この時に、お電話がなかなか繋がらなかったり、留守番電話に入れておいてもご連絡がなかなか取れないケースもあり、また、診断書がなかなか出来上がって来ないため、電話でおしかりを頂戴することもあります。

このような場合は、患者さんのご要望、忙しく働いている主治医の先生との間に立って、とても辛く感じることも多いのですが、できるだけスムーズに診断書の交付ができるよう、主治医の先生に心を決して督促させていただいております。

書類の多くは生命保険会社に出される入院証明書ですが、他にも様々な診断書の発行のご依頼があり、十分患者さんのお話しをお聞きしたうえで、目的にあった診断書がスムーズに発行できるよう努めております。

その際には、機械的に処理をするのではなく、申請用紙に記入する言葉を一緒に考えていただいたり、教えていただいたりもします。そんなとき、患者さんとの会話のなかで、「人に伝える言葉って難しいね」とお互いに顔を見合わせ笑顔がこぼれることもあります。

またお渡しする時にたくさんの「ありがとう」をさせていただくこともあり、その時には、自然と「お大事に」と笑顔で応えることができます。

これからも、入院という辛い経験をされた患者さんやご家族に、スピーディーで正確な書類をお渡しできるよう頑張りたいと思います。

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」
「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。